

あなたのまちの 災害給水体験について

あなたのまちの 災害給水体験について

上下水道部では、平成25年から「あなたのまちの災害給水体験」を開催しています。

この体験会は、開催を申し込みただいた町内会や自治会など各種団体の皆さんに、実際に給水作業を体験してもらい、生きるために必要な水を、災害時にどのように確保するのかを知っていただくことを目的としています。



体験会の様子

体験会の内容は開催する地域によって異なりますが、計画的に市内17箇所を設置する「緊急貯水槽」を使用しておこなう「応急給水」や、給水車で水道水を運んでおこなう「運搬給水」を実際に体験していただきます。

災害が発生すると

大きな地震や樽前山の噴火など、大規模な災害が発生すると、水道水をつくっている浄水場が使えなくなったり、皆様のご家庭に水道水を届ける水道管が壊れるなどの被害が発生することが想定されます。

そのような場合には、飲み水や料理に使う水道水がなくなったり、お風呂やトイレが流せなくなるなど、普段の生活で何気なく使っている水道が使用できなくなります。

上下水道部では、そうした事態に備えて、市内の22箇所「給水拠点」を設置する計画を立てています。

それぞれの拠点では、緊急貯水槽を中心とした災害用設備を使用して、近隣の皆様に3日分の必要最低限の飲料水を提供できるように準備しています。

災害に備えて

大きな災害が起きて水道が使えなくなった時には、必要な水を近くの給水拠点（2ページに地図で掲載）まで受け取りに来ていただきます。水を受け取る時には、ポリタンクやペットボトルなどの容器を持参してください。

お住まいの場所によっては、近くの給水拠点まで1キロメートル以上離れていることもあり、重たい水を運ぶ時には、買い物かごやリュックなどに容器を入れると、安全に運ぶことができます。



手動ポンプによる給水状況

人間はおよそ3リットルの水分が一日に必要ですので、災害時に必要な量の水を運ぶのは大変な作業になります。

日頃から、水道水を清潔な容器に入れて定期的に入れ替えて保管しておく、水を運ぶ必要が無いので安心です。

水道水を保管するには、きれいに洗った容器に、空気が残らないよう口までいっばいに水を入れ、日の当たらない涼しい場所に置きます。

水を入れ替える目安は、毎日替えて頂くと安心して飲んでいただけますが、およそ3日間は水道水の塩素による消毒効果が続きます。

保管する場合には、浄水器を使うと塩素による消毒効果がなくなる場合がありますので使用しないでください。

日常生活では、水道を快適にお使いいただけるように努めています。災害時には皆様のご理解とご協力をお願いいたします。